

# シチズングループのCSR

シチズングループは、「シチズングループ企業行動憲章」をもとにステークホルダーとのコミュニケーションを図り、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の具現化をめざします。

## シチズングループ企業行動憲章

シチズングループは、2007年4月の純粋持株会社体制への移行に伴い、グループ各社の役員・従業員がステークホルダーに対する共通の認識をもって行動し、より一層の社会

的責任を果たしていけるよう、「シチズングループ企業行動憲章」を制定しました。グループ各社は、グループ共通の企業理念「市民に愛され市民に貢献する」のもと、事業特性や地域特性、歴史や企業風土などを尊重し、それぞれの責任のもとでCSR活動に取り組んでいます。

### シチズングループ企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業理念のもと、

- ① 安全、品質、環境に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
- ② 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
- ③ 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
- ④ 環境問題は人類共通の課題であり、また企業の存在と活動に必須の経営課題であることを認識し、自主的、積極的に取り組みます。
- ⑤ 良き企業市民として、地域社会との共生を大切にし、社会貢献活動に努めます。
- ⑥ 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性、多様性を尊重します。
- ⑦ 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
- ⑧ 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。
- ⑨ グループ各社の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、関連企業や取引先に周知します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

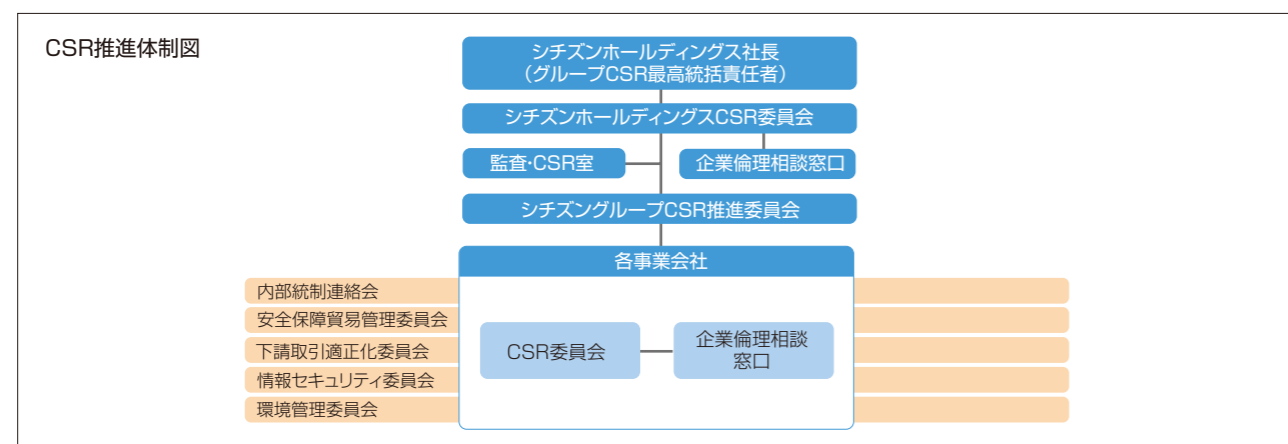
発効日2007年4月6日

## シチズングループCSR推進体制

シチズングループのCSR活動は、シチズンホールディングスの社長を最高統括責任者とし、社長直属の専任部署である監査・CSR室が事務局を務める「CSR委員会」が、グループの方針や政策を立案・提言しています。CSR委員会は、シチズンホールディングスの代表委員で構成されています。

また、CSR活動をグループ一体となって進めていくために、事業会社ごとに「CSR委員会」を設けるとともに各社から選出されたCSR担当責任者で構成する「シチズングループCSR推進委員会」を設置しています。

さらに、内部統制システム管理、安全保障貿易管理、下請法の遵守状況管理、情報セキュリティ対応、環境管理など、シチズングループにとって重要なテーマについては、グループ各社が参加する各種の専門委員会を設けて、施策を立案・実施しています。



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。  
シチズンホールディングス「CSR」の基盤  
シチズングループのCSR

## CSR活動の目標と取り組み状況

### 2009年度の取り組み状況

シチズングループでは、2007年度から毎年各社で「CSR活動目標」を設定して展開を図ってきました。

「シチズングループ企業行動憲章」の条項に沿ってCSR活動目標を定め、年度末に実績をまとめ、今後の課題を明らかにすることでPDCAを廻しています。

以下に2009年度のCSR活動目標と取り組みの一端を一覧表にて紹介します。

2009年度CSR活動目標・実績と今後の課題		A:目標通り達成 B:ほぼ達成 C:課題あり D:未実施				
企業行動憲章	CSR活動目標	会社名	2009年度取り組み状況	評価	今後の取り組み・課題	参照
第1条 製品の安全・品質	お客様時計相談室の質の向上	シチズン時計	相談受付・対応の体制の改善を目標として活動。問い合わせ内容を分析し、関係部門へのフィードバック(VOCの発信)をスタート。	A	事例抽出ガイドラインを作成し推進。	P18,19
	クレームの低減と歩留まり向上対策	シチズンファインテック クミヨタ	品質向上会議でクレーム対応と第三者監査対応状況を確認。全社で情報を共有し水平展開を実施。歩留まり向上活動の結果廃棄率は0.43%削減することができた。	B	第三者監査の内容を把握し他部門への水平展開を推進。	P19
第2条 商取引	下請法遵守の徹底	シチズン電子	違反件数ゼロを目標に活動を実施した。中小企業庁の立入検査があり、数点の指摘事項を受けて改善報告書を提出したが、重大な違反事項はなかった。	B	委員会を中心に関係部門と遵守活動を継続。	P21
	安全保障貿易の適正管理の実施	シチズン平和時計	外為法の改正への対応として社内規定を改訂し、講習会を実施。該非審査を実施した。	A	審査体制の維持と強化。技術輸出管理の対応。	-
第3条 コミュニケーション・ 情報管理	知的財産権に対する対応力の向上	シチズン時計	新設計・新技術導入時において、第三者知的財産権の侵害を防止するためのシステムを強化。	A	システムの維持、および知的財産の重要性に対する意識強化。	P17
	J-SOX内部統制の推進	シチズンファインテック クミヨタ	J-SOX評価委員会を中心に、内部統制の整備、運用評価を実施。改善事項として販売管理規程、購買管理規程などの改訂を行い統制内容を整備した。	A	その他の業務規程の改訂を促進。	-
第4条 環境管理	試作レス・削減による環境負荷の削減	シチズン時計	腕時計の開発では、種々シミュレーションの導入、実用化を推進することにより、試作回数、試作数量を削減。さらに、開発時間の短縮、問題点の早期検出によるロス軽減を図った。	A	種々の方策をさらに強力に推進し、環境負荷の軽減を推進。	-
	環境配慮型製品の開発	シチズンマシナリー	環境配慮型製品用アセスメントリストを策定。とくにグリーン調達に際しては、リストに規定されている基準書の説明会を調達取引会社に対して実施。2010年度中に環境配慮型の新製品実現をめざして取り組み中。	B	環境配慮型製品の開発を継続。	-
第5条 社会貢献	ウォーキング大会への協賛	シチズンシステムズ	11月の日本スリーデーマーチなどのウォーキング大会、西武沿線でのハイキングイベントに協賛し、サポートを行った。	A	協賛、サポートを継続。	WEB
	地域社会とのつながりを大切に、交流を通じての社会貢献活動の推進	東京美術	東京国立博物館の賛助会員としての文化活動への参加。7月に森林ボランティアとしてシチズンボランティアクラブの都立八国山緑地での下草刈りに参加。	B	本業に關係する活動を模索しながら継続。	-
第6条 従業員	事業継承に適応した人材確保と育成計画	シチズンセイミツ	マイスター・指導員制度を導入し、指導員3名を認定。指導マニュアルを整備するとともに指導塾を開始。	B	全部門での展開。指導員のスキルアップと、マイスターの任命。	-
	職場の安全確保とメンタルヘルスの実施	シチズン電子タイムル	安全/トラールで設備の安全装置の動作確認や5S状態の確認を4回実施し、不具合の是正処置を行った。11月にメンタルヘルス診断、2月にカウンセリングを実施。	A	継続実施。	-
第7条 反社会的勢力	反社会的勢力への対応	シチズンプラザ	各部門共同して対応策を再検討し強化した。盗難、防犯対策の強化と、巡回方法の強化を実施。	A	継続実施。	-
第8条 海外現地の発展	中国工場における福利厚生充実	シチズンセイミツ	1,700名収容の宿舎が完成し、食堂のスペースの拡大、配膳室の衛生面改善、エアコン設置などリニューアルを行った。	A	衣食住環境の満足度の向上と社会保険制度への加入促進。	-
	中国工場での安全衛生・環境活動	シチズン東北	6SE委員会(5S+安全S+環境E)を中心に各職場での自己評価を行い、安全衛生環境の改善対策を実施。職場/トラールにて安全確認を実施。環境では排水委員会が排水量、BODの低減対策を実施。	B	改善事項の水平展開。工程内の水のリサイクル技術の開発など。	WEB
第9条 経営者の責任	目安箱への投函意見への対応	シチズンファインテック クミヨタ	会社の全活動に対する評価として「現場の声」を聞き、意見・進言・提案により諸改革を推進するために「目安箱」を設置している。22件の投函意見について、関係部門と協議を行い対策を図った。	A	継続実施。	-
	6S活動から7S活動への移行と改善活動のレベルアップ	シチズンセイミツ	独自の6S活動(5S+作法S)に安全Sを追加して、不安全行動の撲滅を推進。7S診断では全社平均4.79ポイント(5点満点)となり目標を達成。部門間差も大きく縮小。	A	組織的な活動は確立されたので、今後は成果を得る活動へ移行。	WEB

### 2009年度の総括と今後の課題

2009年度は、企業行動憲章各条項に対する進捗状況を確認するため、グループ29社に対してCSR活動状況調査を行いました。この調査結果と2009年度CSR活動実績をまと

めると、1)海外でのCSR活動の強化、2)製品供給責任の面からの事業継続計画(BCP)の策定、3)購買面でのCSR基準の導入(CSR調達)、4)地域における社会貢献活動の推進などが今後の優先課題としてあげられます。